平成 30 年度 総会に当たって

関東安陵会会長　中　川　裕　雄

今年も関東安陵会の開催を迎えました。一言ご挨拶申し上げます。

本日、竹井俊久校長先生や丸田卯禮男本部安陵会会長をはじめ、多数のご来賓をお迎えし、会員の多くの出席の中、盛大に開催できますことに感謝申し上げます。

また、この関東安陵会の運営に当たりましては、会員の皆様に日頃よりご指導・ご支援をいただいておりますことに改めて感謝申し上げます。

さて、関東安陵会は、会員相互の親睦を図るとともに母校の発展に寄与することを目的に活動を続けて、昨年７０周年という節目を迎えました。本年度は、７５周年に「記念誌」を発刊すべく、その編纂委員会の設置をはじめ、具体的な作業に取組んで行こうと考えております。原稿の作成及び寄付等に関し、会員のご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

昨年、関西安陵会の総会に出席の折、会場に陳列されていた大高生の書作品を鑑賞する機会に恵まれました。楷書、隷書などの書体で、高校生の作品とは思えないほどの力量溢れる作品に出会い、驚きとともに心より感激いたしました。全国大会でも優秀な成績を収めた実力どおりの出来栄えでした。昨今は、書を嗜む人が少ない中で、大きな力をもらった次第です。

考えてみますと、高校生活は、大学生活とは異なり、先生との距離が近く、その先生の教えなりを身近に感じるところがあります。自身のことを振り返れば、高校生活は、人格形成の基礎作りの役割を担っているように思われます。いわば「面綬」による教えが、良い意味で、生徒の好奇心・勉学意欲を掻き立てているように思われます。

私は、今年、大高卒業５０年目ということで、現役諸君の卒業式に参列する機会を得ました。

この卒業式を最後に大高から転出された池田校長先生の式辞は、大高赴任時に入学した生徒に対するものでもあり、３年間にわたる先生の教育に対する思いと、伸びしろのある卒業生への期待と愛情のこもった感動的なものでした。

「威風堂々」の曲目演奏に送られながら、会場を後にする卒業生に、心からエールを送りました。

卒後５０年目の卒業式への出席の機会を得たことに、改めて感謝を申し上げます。

最後に、関東安陵会の益々の発展、母校の発展を願い、また、ご出席いただいた皆様のご健勝を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。